城田会長

馬県環境資源保全（城田裕司会長）は26日、前橋マーキュホテルで公益社団法行後5回目となる通会を盛大に開催し本年度の事業計画案支予算案などを審議いずれも全会一致でした。

循環型社会を実現していく

催者を代表して城勢の来賓が駆け付けた。

この日は各界から大する循環型社会の実現に向け、行政機関のご指導と県民の皆さまのご支援の下、さまざまな事業を展開してきた。群馬県の協会は会員約700社を数え、組織率は全国第1位。本日の総会を機に『組織で学ぶ教育と実践』のテーマで一層努力してまいりたい」とあいさつした。

この日は各界から大

義則氏は「県民生活に欠かすことのできない団体。さらにご発展を」と福田氏の言葉を代読。村手聡副知事は「今後も皆

村手副知事

悴田氏

澤正明知事のメッセージを披露した。

県議会の星野寛議長、橋爪洋介副議長、中沢丈一議員、久保田順一郎議員、織田沢俊幸議員、臂泰雄議員も「環境県群馬の発展を皆さまとともに」などとそれぞれ述べた。県警本部生活環境課の平田富徳課長は「不適正処理の根絶にご尽力を」と金田貴生活安全部長の祝辞を代読。山本龍前橋市長は「皆さまと

保全保証基金事業◇環境教育学習会館（施設）建設推進◇天災時における

総会後は「環境を考える」交流会も催され、参加者は親睦を深めた。

群馬県建築士事務所協会（栗原信幸会長）は5月27日、前橋市のホテルラシーネ新前橋で定時

栗原会長

建築士事務所協会

栗原会長の続投承認

通常総会で全議案を可決

総会を開いた。昨年度の事業報告や本年度の事業計画案などについて審議し、全ての議案が全会一致で承認された。本年度は役員改選があり、栗原会長らの再任が決まった。

冒頭、栗原会長は議案の慎重な審議を求め、あいさつも早々に議事に入った。石井アーキテクトパートナーズの山口幸治氏を議長に立て、昨年度の活動報告や収支決算などを審議した。

本年度の事業計画には、◇建築士事務所業務に関わる契約内容の適正化、開設者に対する指導◇各種研修会の開催◇新業務報酬基準の普及啓発◇住宅アドバイザーによる相談、派遣◇群馬県空き家活用・住み替え支援協議会への事業協力―などが盛り込まれた。また本年度は本県が関東甲信越ブロック協議会の幹事県となっており、今月17、18の両日、伊香保温泉ホテル木暮で同協議会を開催することが承認された。

本年度の事業計画案などを審議

総会後は懇親会も開かれ、県や前橋市の幹部らが駆け付ける中、会員らは親睦を深めた。

環資協

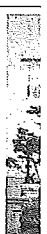
角倉氏招き講演会

「トータルで適切な対策を」

群馬県環境資源保全協会（城田裕司会長）は5月26日、前橋マーキュリーホテルで本年度第1回研修会を開催した。講師に環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長の角倉一郎氏を招き「産業廃棄物行政と昨今の動向」についての講演が行われた。

開演に先立ち城田会長は「本日は環境省から、環境・廃棄物行政の第一人者の角倉先生をお迎えしている。ご静聴いただき、明日からの皆さまの業務にお役立ていただきたい」と呼び掛けた。

来賓を代表して県廃棄物・リサイクル課の岩瀬春男課長が「本日は、先ごろ問題になった食品廃棄物の不適正処理や前回の改正から5年後の廃棄物処理法の見直しの動向など最近のトピックスについてお話いただける



群馬県支部

専門校生14人を指導

建築塗装の役割伝える

支部長

を持って活動していることを知ってほしい。塗装業界は皆さんのような若

あいさつした。続く木暮拓矢青年部会長は「講義で学んだことに魅力を感

が果たす社会的役割」と題し、業界の社会貢献について分かりやすく紹介した。

卒業生2人は、「言われたことをきちんとやり、清掃もきちんとしっかりやっている。お客さ

事の励みになる」と、入職して3カ月たった心境を語った。

真木哲男校長は講習会について「昔に比べ、身近で作業を見る機会が少なくなっている。業界のことを知る良い機会」

消防設備協会

「安心安全を提供」

本年度の定時総会開催

群馬県消防設備協会は5月27日、前橋市の群馬県庁で定時総会を開催した。全

フロン回収事業協会

藤田代表理事

今後も排出

群馬県フロン回収事業協会（藤田実代表理事）は5月30日、ラシーネ新前橋で本年度の通常総会を開催した。役員改選が行われ、全会一致で藤田代表理事（以下、全役員を再任した。

藤田代表理事は「フロン排出抑制法が施行されたことを受け、当協会では昨年度、独自にテキストを作成し、県と計6回にわたり『フロン類充填回収技術講習会』を開催した。十分な知見を有する者を育成してきた。今後もフロン排出抑制法の啓発に努めていく。引き続き皆さまのご協力をお願いしたい」とあいさつした。

この日は県や関係団体から多数の来賓が駆け付けた。県環境保全課の根岸達也課長は「フロンをめぐってはいろいろと

世の中が動いている。ロンに替わる次世代冷の具体的なものはまだえていないが、過渡期あると思う。こうした きに大きなマーケットできる。皆さま方が的に対応できるよう、連を深めていきたい」と気込んだ。

新潟県フロン回収業協会の難波昇一代表事は「昨年のパリ協定日本は2013年度比30年度に26％、50年度は80％の温室効果ガス削減すると約束した。やるべきことはフロンスを絶対に漏らさない組みづくり。一人一人そういう意識を明確にことが大事」と呼び

方本部ビルでは、当方